

# 船井情報科学振興財団 報告書

織井理咲

University of Washington  
Paul G. Allen School of Computer Science & Engineering

2025 年 6 月

University of Washington Paul G. Allen School of Computer Science & Engineering の博士課程 4 年目の冬学期と春学期についてご報告します。

## I. フィールドワーク in ケニア

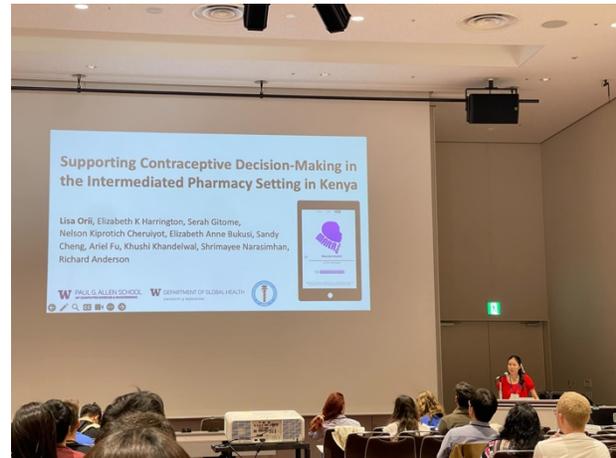
2024 年 12 月の General Exam（卒論の提案書）で発表した研究を実施するために 2025 年 3 月～4 月に一年ぶりにケニアを訪問しました。この研究は去年から続けているケニアの若い女性の避妊法の選択支援をするアプリの開発に関するプロジェクトの延長で、去年開発したアプリの有効性を強化する人工知能（チャットボット）の可能性について研究しました。今後チャットボットをアプリに導入するにおいて必要なデザイン上の考慮事項を明確化するために、現地の若い女性にチャットボットのアイデア創出をする参加型デザインワークショップを開催しました。

フィールドワークのついでに今年もマサイマラでのサファリを体験しました。2 回目のサファリになりますが、初回とは全然違う光景を楽しむことができました。去年は見る事ができなかったオスライオンにも遭遇しました。



## II. 学会

5月に横浜開催のCHI（HCIの分野の国際的なトップカンファレンス）が行われ、採択された論文を発表するために参加しました。5600人以上が集まっています。発表した論文は去年のケニアでのフィールドワークの結果についてです。また、今年は初めて学会の運営（学生ボランティア）に関わることができました。学会で20時間ボランティアする分、学会登録費を免除してもらえます。何かのハプニング（機材の故障や発表者が時間通りに来ない等）にすぐ対応するのがボランティアの役割です。世界中から集まった学生が約200人もいたので毎日ボランティア活動を通して新しい人に出会うことができました。また来年もぜひボランティアとして学会に参加したいと思います。



## III. 夏のインターンシップ

6月から OMRON SINIC X Corporation（東京）で研究インターンシップを始めました。ピアサポートにおけるコミュニケーションの中でAIが果たす役割を研究しています。このプロジェクトは東京大学と京都大学の研究者との共同研究によるものなので、メンタルヘルス、AI、HCIといった様々な専門性が集まった学際的な研究です。日本での研究の進め方や企業での研究についてもっと知る良い機会になると感じています。

## IV. 最後に

いつもご支援ありがとうございます。秋から博士課程5年目が始まり、いよいよ最終段階となりますが、最後まで充実した研究生活を送れるよう、精一杯取り組んでいきたいです。